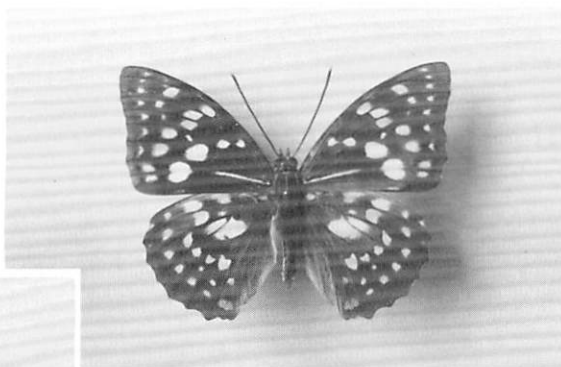


オオムラサキとコムラサキ

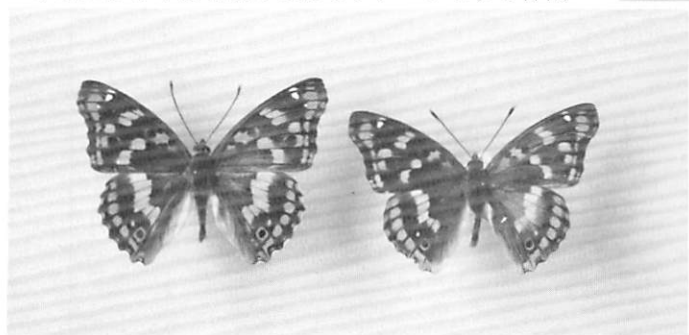
最近、函館周辺でも以前に比べてチョウが少なくなつたとよくいわれる。しかし気をつけてみればまだまだ多くの種類のチョウたちを見ることができる。

さて、当館にはこれら函館周辺のチョウをはじめ道内、本州などで採集された標本が多数収蔵されているが、ここに紹介するのはタテハチョウ科に属するオオムラサキとコムラサキである。

オオムラサキは名前のとおりタテハチョウの仲間



オオムラサキ



コムラサキ

でも大型のチョウで翅表面が紫色に輝きとても美しい。1957年(昭和32)に国蝶に指定され、切手の図案にも使われた。北海道では札幌周辺だけに分布するといわれ、7月上旬頃姿を見せる。クヌギ、クワなどの樹液に集まってくる。

の樹液に集まってくる。

これらのチョウ類標本は昭和20年代から40年代にかけ、函館昆虫同好会会員の手によって採集され寄贈されたもので、採集記録も確かであることから学術的にも貴重なものばかりである。

(学芸員：尾崎 渉)

昭和63年度特別展「北への道」 ―幻の蝦夷共和国への道―

昭和63年は「戊辰」に当たり、箱館戦争から120年になります。また函館の大きなイベントとして「青函トンネル開通記念博覧会」が開催されました。

函館博物館でもこれに併せて「北への道」―幻の蝦夷共和国への道―と題する特別展を7月9日から9月18日までという長期間、「青函博覧会」と同じ日数で、五稜郭分館を会場にして開催しました。

全国から借用した交通および戊辰戦争関係資料に函館図書館や当館所蔵資料を加えて、1. 江戸時代の往来、2. 幕末の動乱と奥羽越列藩同盟、3. 幻の蝦夷共和国と箱館戦争、4. 北海道開拓への道、という4つのコーナーに分けて展示しました。

江戸が政治の中心になると、参勤交代などで街道が整備されます。しかし、当時蝦夷地への往来は大変なものだったようです。多くの紀行文や絵図が残されています。また、松浦武四郎や間宮林蔵など多くの人が調査や探検のため蝦夷地に来ています。

慶応4年の幕末鳥羽伏見の戦いに始まる戊辰戦争は、江戸開城・東北戦争へと北上します。幾多の戦いの後、奥羽越列藩同盟はついに降伏を決めます。

その頃、榎本武揚率いる8隻の旧幕府軍艦が品川

沖を出発し、仙台に立ち寄り、さらに北上し蝦夷地鷲の木に上陸、箱館を占領、つづいて松前藩を追い出して12月15日蝦夷地占領を宣言するとともに、士官以上の入札によって榎本総裁らを選出し行政機構を整えます。しかし、翌年5月18日には本拠としていた五稜郭を開城し新政府軍に降伏します。これらの戦いに加わった新政府軍や旧幕府軍の将兵たちは、どのような町を通り、山を越えて「北への道」を辿ったのでしょうか。そして、現在トンネルで繋いだ津軽海峡をどのような気持ちで渡ったのでしょうか。この戦いで多くの人の血が流されました。特に土方歳三は京都から箱館へ戦いながら北へ進み、そして函館を最期の場所として壮絶な戦死をとげます。

箱館戦争が終了すると、鉄道の発達と青函連絡船によって東京と函館の往来は早くかつ便利になり、函館は北海道の入り口として発展してゆきます。

これらを途中展示替えもしましたが、常時約250点の資料を展示し、観覧者23,633人の皆さんに楽しみながらご理解をいただいたと思います。

(学芸員：岡田 一彦)

特別企画展 “THE HAKODADI”

昭和63年度は、青函博開催ということで、博物館本館で特別企画展を7月1日から9月30日までの3ヵ月間開催した。この企画展は函館が洋風化するなかで、函館の日本的伝統と近代化する生活、外国人の眼と日本人の眼、さらに箱館開港が津軽海峡を渡って影響を与えた青森を企画のなかで展開しようと考えた。HAKODADI―この呼名は1854年来航したアメリカのペリー艦隊や翌年のフランス、インドシナ艦隊の記録にも見えることから、当時の函館の人自身がハコダディと発音していたのであろうか。



明治初期の
函館風俗人形

主題に対して、函館の風土と年中行事は、パリ発行の「イリュストラシオン」、弘前人の平尾魯仙の「箱館紀行」で紹介し、安政2年は箱館八幡宮の祭礼が山車の行列でにぎわい、隔年の七夕祭は箱館独特の「ねふた」でにぎわいをみせていた。明治の洋物店は、和洋折衷の建物に洋品雑貨や洋物金物店などがあり、函館の西欧文化は、「諸術調所」「箱館洋学所」、福士成豊の箱館洋学ことはじめや安政6年からの箱館輸入品目にみえる巻煙草、ガラス板、ブリキ瓦、ラシャ地、時計、麦粉などが日常生活にも取り入れられ、西洋料理店、洋式船の建造、住宅の洋風化と函館ハイカラが特色づけられていった。函館から青森に渡った資料も展示することができたが実物には限りがあり、初めての試みとして箱館異人風俗人形、明治函館風俗人形を建物を背景に約6分の1で制作し、160体を陳列して解説文に代えたが、入館者が人形と対話する姿が、展示室に流れる明治のオルゴールとテープの解説に調和していた。

人形の制作にあたって、人形教室の先生方が半年以上もボランティアで取組んで下さった。衣服の吟味から荷物の縄の結びまで再現されたところに企画展の成功があったと思う。

(学芸係長：千代 肇)

事業報告 (63.1.1~63.12.31)

◎資料管理・整理・保存

○受入

- ・オルガン 1件
【根深 実氏寄贈・函館市時任町35-25-203】
- ・小倉百人一首北潮屏風 六曲一双 1件
【井上 圭司氏寄贈・大阪市東成区玉津1丁目9-28】
- ・手書き板かるた貼込屏風 二曲一双他 2件
【中村北潮氏寄贈・大阪市平野区長吉六反5丁目
8-19-301】
- ・吸入器 1件
【水谷ヨシミ氏寄贈・函館市中島町12-20】
- ・レコード 1件
【上村 要氏寄贈・函館市榎本町18-14】
- ・ジャム入容器 1件
【小川孝子氏寄贈・東京都世田谷区北沢2-26-3】
- ・置物他 7件
【渡辺ゆき子氏寄贈・函館市湯川町2-3】
- ・大皿他 3件
【山口喜代子氏寄贈・東京都千代田区四番町6】
- ・キャンディー盛皿 1件
【丹羽淑子氏寄贈・桐生市宮本町3-6-32】
- ・郵便差出箱(丸型) 1件
【函館郵便局寄贈・函館市東雲町1-6】
- ・函館港東浜町勝田旅亭之図 1件
【コウ・マリア・レイモン氏寄贈・函館市元町30-3】
- ・手書き板かるた色紙(額装) 100件
【吉田清春氏寄贈・大阪府吹田市千里西1-26-26】
- ・書他 13件
【中島 登氏寄贈・静岡県浜松市紺屋町306-36】
- ・詩書 1件
【加賀谷喜太郎氏寄贈・松山郡上ノ国町字大留】
- ・角巻 1件
【中山清太郎氏寄贈・函館市富岡町1丁目15-3】
- ・炉まわし 1件
【七里嘉門氏寄贈・函館市松川町24-13】
- ・墨つぼ 1件
【岸本フサヨ氏寄贈・函館市松陰町12-4】
- ・刺子 1件
【岩城晶子氏寄贈・函館市陣川町13-123】
- ・油絵「琵琶をもつ女」 1件
【函館市末広町会寄贈・函館市末広町4番23号】
- ・物指 1件
【計良芳枝氏寄贈・函館市本町21番6号】
- ・トランク 1件
【竹田周作氏寄贈・函館市柳町2番17号】
- ・群像(和仁壯六画)油彩 1件
【若山徳次郎氏寄贈・函館市元町3-9】
- ・新刻箱館全図(明治元年) 1件
【田辺彩子氏寄贈・東京都練馬区東大泉2-1-39】
- ・詩書 1件
【山本達雄氏寄贈・札幌市中央区北1条西28丁目】
- ・橋名板 1件
【函館市土木部保管替・函館市東雲町4-13】

○整理

自然科学資料(植物)整理
考古資料整理

○保存

ばく涼

本館 10月1日~10月24日
分館 11月8日~11月14日

○貸出

- ・北方歴史資料館展示 2件
(1月26日~12月30日)
- ・函館市北洋資料館常設展示 25件
(4月1日~3月31日)
- ・旧函館区公会堂常設展示 2件
(4月1日~3月31日)
- ・世界のイカ料理祭展 1件
(6月2日~6月4日・五島軒本店)
- ・青函トンネル開通記念博覧会「道南歴史館」38件
(6月中旬~9月下旬)
- ・青森県立郷土館特別展「津軽海峡縄文美術展」20件
(6月3日~9月30日)
- ・青函博(函館EXPO'88)協賛特別企画展
「謎を秘めた幕末期の箱館」30件
(8月9日~9月2日・丸井今井函館支店)
- ・戊辰戦争「五稜郭展」6件
(12月20日~1月14日・札幌三越・函館西武)

◎展示

○特別展

北への道(分館 7月9日~9月18日)

○特別企画展

THE HAKODADI(本館 7月1日~9月30日)

○企画展

ひな人形展(資料館 2月20日~3月3日)
新収蔵資料展(本館 10月25日~12月25日)

○常設展

展示替(本館 12月)

◎教育普及

○市民講座(4回79名)

磯の生物観察会(7月30日)
親と子の土器づくり(10月23日、11月3日)
アイヌの技一刀掛帯をつくる(11月5日)
わらざうりをつくる会(11月13日)

○科学教室(12回 322名)

春の星座観測会(5月14日)
植物野外観察会と標本のつくり方(6月12日)
夏の星座と七夕観測会(7月2日)
昆虫野外観察会(7月24日)

市電のしくみと駒場車庫見学会（7月29日）
夏休み工作教室・木工（8月6日）
鉄道車両のしくみと函館運転所見学会（8月10日）
天体望遠鏡の使い方と月の観測会（9月24日）
植物野外観察会と標本のつくり方（10月2日）
秋の星座観測会（10月15日）
冬の星座観測会（11月19日）
工作・タコを作ってみよう（12月11日）

○出版

3月15日 館報「サラニップNo27」発行

○調査・視察・団体観覧

1月26日 信州大学松本建速氏考古資料調査
東京芸術大学松定講師外資料調査
2月18日 国立民族博物館石毛教授資料調査
3月3日 東京国立文化財研究所樋口修復技術部長資料調査
3月5日 日本科学技術史博物館準備委員会山本次長資料調査
3月8日 北海道開拓記念館関主任学芸員資料調査
3月17日 内閣総理大臣官房特別基金検討調査室幸田主査外視察
3月23日 信州大学松本建速氏外考古資料調査
3月26日 北方新社・朝日新聞記者一行視察
3月27日 弘前大学橋場氏資料調査
3月29日 日本大学森中教授資料調査
3月30日 筑波大学前田講師資料調査
4月19日 青森県立郷土館福田氏資料調査
5月1日 日本大学寺中教授資料調査
5月10日 アイヌモシリ館運営委員会職員アイヌ民族資料調査
5月15日 苫小牧市博物館佐藤副館長資料調査
5月25日 全国自治体議会協議会一行視察
7月11日 余市水産博物館三浦館長資料調査
7月20日 桑名市博物館不破主任資料調査
7月24日 駐日フランス大使館Jean Pierre LAFOSSE参事官外資料調査
8月9日 ブザンソン美術館フランソワーズ・スリエ・フランソワ館長外美術・アイヌ民族資料調査
8月18日 中国科学院古脊椎動物古人類研究所黄副研究員考古資料調査
8月30日 小島資料館小島館長特別展展示状況視察
9月6日 プリンス・オブ・ウェルズ博物館B・V・SHETTI学芸員視察
9月12日 靖国神社学芸員伊藤義幸氏特別展展示状況視察
9月27日 前橋市教育委員会一行視察
9月30日 武蔵野市都市計画審議会一行視察
10月5日 清瀬市長外視察（分館）
10月20日 NHK函館・青森放送局一行視察
北海道女子短期大学板橋教授資料調査
10月27日 箕面市議会議員稲尾氏外視察
11月27日 国立歴史民俗博物館福田氏資料調査
12月18日 (財)北海道埋蔵文化財センター中田氏考古資料調査

○写真撮影・提供・転載許可

博物館資料の写真撮影など 60件

○実習生受入（26名）12月18日～12月29日

北海道教育大学函館分校 24名
札幌学院大学 1名
新潟大学 1名

◎会議出席

○博物館大会

北海道博物館大会に加納館長以下4名出席
（7月12日～13日函館市）

◎人事異動

玉地 国雄 厚生部社会課社会係長に異動（4月16日付）
遠藤 清 庶務係長発令（4月16日付）
播摩登貴江 主任主事発令（5月1日付）
寺分由紀子 臨時職員退職（3月19日付）
藤森 祐子 臨時職員採用（4月1日付）
三浦真紀子 臨時職員退職（4月30日付）
藤森 祐子 臨時職員退職（8月15日付）
平田美枝子 臨時職員採用（8月16日付）

入館者統計

昭和63年常設展示（63.1.1～12.31）

月別	本館	分館	資料館	計
1	224	657	427	1,308
2	489	2,043	1,128	3,660
3	1,107	3,600	1,341	6,048
4	1,089	1,032	650	2,771
5	6,072	15,890	3,182	25,144
6	(休館) -	10,963	1,562	12,525
7	(企画展) -	(特別展) -	1,967	1,967
8	(企画展) -	(特別展) -	3,664	3,664
9	(企画展) -	(特別展) 1,644	2,786	4,430
10	115	8,329	1,424	9,868
11	556	1,814	473	2,843
12	132	785	325	1,242
計	9,784	46,757	18,929	75,470

昭和63年度特別展 五稜郭分館（7/9～9/18）

月別	個人	団体	計
7	5,254	632	5,886
8	12,254	1,170	13,424
9	3,768	555	4,323
計	21,276	2,357	23,633

昭和63年度特別企画展 博物館本館（7/1～9/30）

月別	個人	団体	計
7	2,249	332	2,581
8	3,489	221	3,710
9	2,317	1,136	3,453
計	8,055	1,689	9,744

Hakodate City Museum News

SARANIP-サラニップNo28 1989. 3. 15発行
編集・発行 市立函館博物館（TEL0138-23-5480）
北海道函館市青柳町・函館公園内（〒040）